

小細胞肺癌治療中に発症し傍腫瘍性辺縁系脳炎との鑑別を要した単純ヘルペス脳炎の一例

奥山 顕子^{a)}、山沢 英明^{b)}、佐多 将史^{a)}、鈴木 拓児^{a)}、北村 諭^{c)}、萩原 弘一^{a)}

a) 自治医科大学 内科学講座 呼吸器内科学部門

b) 国際医療福祉大学病院 呼吸器内科

c) 南栃木病院

要旨

67歳男性．小細胞肺癌の2次化学療法により抗腫瘍効果が得られていたが，軽度の見当識障害と右前頭葉皮質大脳縦裂部の新規病変が出現した．第6病日に脳病変は両側帯状回まで拡大し，辺縁系脳炎と診断した．アシクロビル投与，免疫グロブリン静注療法を行ったが，意識状態は悪化し死亡した．後に髄液中の単純ヘルペスウイルス DNA が陽性と判明し，単純ヘルペス脳炎と診断した．抗癌剤治療中に辺縁系脳炎の発症をみた場合には，傍腫瘍性以外の原因疾患について積極的に検索することが重要である．

キーワード：小細胞肺癌，辺縁系脳炎，単純ヘルペス脳炎，傍腫瘍性辺縁系脳炎

Small cell lung cancer, Limbic encephalitis, Herpes simplex encephalitis, Paraneoplastic limbic encephalitis

短縮タイトル：小細胞肺癌治療中に発症した単純ヘルペス脳炎の一例